

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

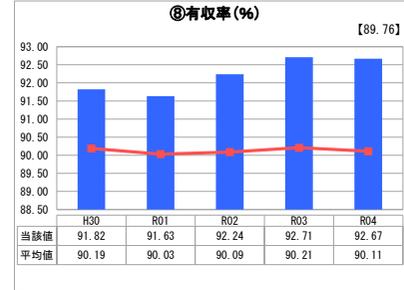
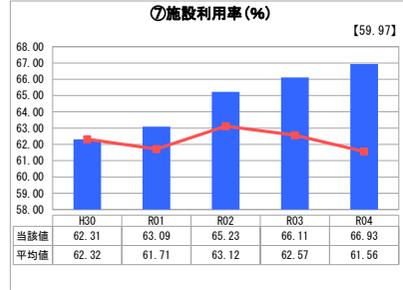
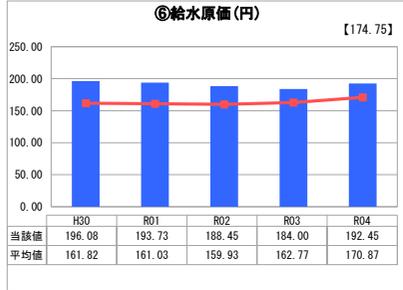
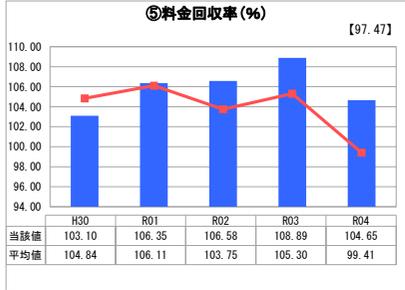
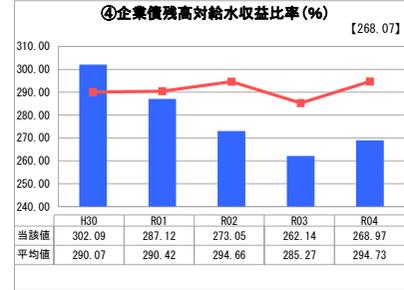
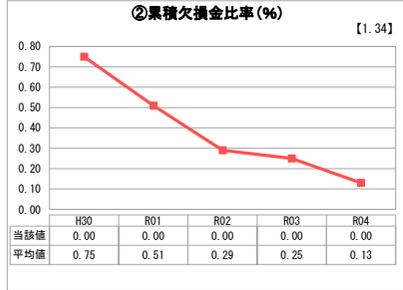
茨城県 つくば市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)	
-	65.36	90.87	2,860	

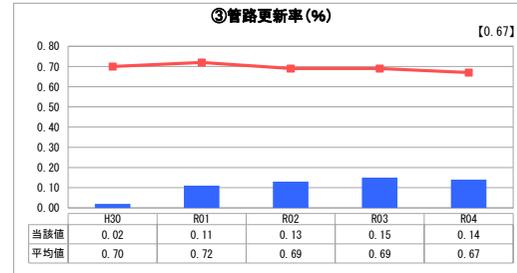
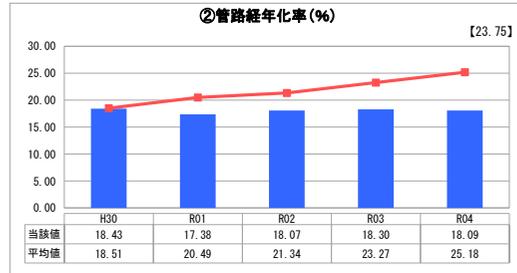
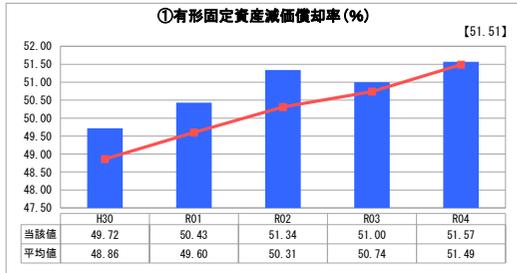
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
252,202	283.72	888.91
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
229,245	283.72	808.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、⑤ 料金回収率、⑥ 給水原価  
給水原価は近年減少傾向にありましたが、令和4年度は漏水等に係る修繕費の増加や物価高騰及びエネルギー価格の高騰により、上昇しました。経常費用が増加したことにより、経常収支比率が減少しました。  
また、給水原価の上昇に伴い、料金回収率が減少しました。  
経常収支比率及び料金回収率は減少したものの、類似団体の平均値と同水準となっています。  
③ 流動比率  
年々上昇傾向にあり、100%は超えているものの、類似団体の平均値と比較すると依然として低い数値となっています。支払能力を表す指標であるため、注視する必要があります。  
④ 企業債残高対給水収益比率  
建設改良事業費における企業債の割合が増加したことにより、企業債残高対給水収益比率も上昇しました。  
⑦ 施設利用率  
TX沿線開発地区や研究学園地区の給水人口が増加したことに伴い、配水量も増加したため、施設利用率も上昇しました。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
施設及び管路の更新事業の推進により、償却対象資産の帳簿価額は上昇傾向にありますが、令和4年度は耐用年数が比較的短い施設を更新したことにより、減価償却費が増加し、有形固定資産減価償却率も上昇しました。  
② 管路経年化率  
近年は増加傾向にありましたが、管路の新設事業を積極的に行ったことにより、管路の総延長が伸びたため、管路経年化率は減少しました。  
③ 管路更新率  
類似団体平均値と比較すると、低い水準にあります。理由としては、比較的新しい管路が多く更新管路延長が抑えられていることと、水道未普及地域解消事業が継続中であり、管路延長が増加していることが挙げられます。

### 全体総括

令和4年度は、漏水件数の増加や物価高騰により費用が増加したため、給水原価や経常収支比率に影響が出ましたが、黒字経営を維持することができました。  
企業債残高対給水収益比率は、近年減少傾向にありましたが、令和4年度は上昇に転じました。今後も、積極的な新設事業と老朽化した施設の更新事業を併せて行っていくため、継続した上昇が見込まれます。  
流動比率及び管路更新率は、依然として類似団体平均値と比較すると低い傾向にあります。  
令和4年度に策定した経営戦略に基づき、計画的な経営を行い、企業債残高の抑制や、資金残高及び管路更新費用の確保により、比率の改善に努めます。